

現代文 理解編

目次

小説

① 小説の読解 (1)	4
② 小説の読解 (2)	6
③ 小説の読解 (3)	8
④ 小説の読解 (4)	10
⑤ 小説の読解 (5)	12
⑥ 小説の読解 (6)	14
⑦ 小説の読解 (7)	16
⑧ 小説の読解 (8)	18
⑨ 小説の読解 (9)	20
⑩ 小説の読解 (10)	22
⑪ 隨筆 (1)	24
⑫ 隨筆の読解 (2)	26
⑬ 隨筆の読解 (3)	28

評論文

⑯ 隨筆の読解 (4)	30
⑰ 隨筆の読解 (5)	32
⑱ 隨筆の読解 (6)	34
⑲ 隨筆の読解 (7)	36
⑳ 隨筆の読解 (8)	38
㉑ 隨筆の読解 (9)	40
㉒ 評論文の読解 (1)	42
㉓ 評論文の読解 (2)	44
㉔ 評論文の読解 (3)	46
㉕ 評論文の読解 (4)	48
㉖ 評論文の読解 (5)	50
㉗ 評論文の読解 (6)	52
㉘ 評論文の読解 (7)	54
㉙ 自然と科学、文明の発達	56

実戦問題

28	評論文の読解 (8)	コミュニケーション	58
29	評論文の読解 (9)	コミュニケーション	60
30	評論文の読解 (10)	コミュニケーション	62
31	評論文の読解 (11)	コミュニケーション	64
32	評論文の読解 (12)	文化	66
33	評論文の読解 (13)	文化	68
34	評論文の読解 (14)	文化	70
35	評論文の読解 (15)	文化	72
36	評論文の読解 (16)	文化	74
37	評論文の読解 (17)	考えること、生きること	76
38	評論文の読解 (18)	考えること、生きること	78
39	評論文の読解 (19)	考えること、生きること	80
40	評論文の読解 (20)	考えること、生きること	82
41	実戦問題 (1)	小説①	84
42	実戦問題 (2)	小説②	88
43	実戦問題 (3)	小説③	92
44	実戦問題 (4)	小説④	96
45	実戦問題 (5)	隨筆①	100
46	実戦問題 (6)	隨筆②	102
47	実戦問題 (7)	評論文①	106
48	実戦問題 (8)	評論文②	110
49	実戦問題 (9)	評論文③	114
50	実戦問題 (10)	評論文④	118
51	実戦問題 (11)	評論文⑤	122

1 小説の読解(1)

小説

例文

学習日

✓ 学習の要点

〈石坂洋次郎「暁の合唱」より〉

小説は、虚構（フィクション）によって人生や社会の真実を追求し、表現する文学である。広い意味では物語に属するが、近代になって発達したものをお特に小説と呼んでいる。話の筋の展開は、普通、発端・展開・頂点（クライマックス・やま）・結末という順序をとる。

(1) 場面・背景を理解する

→ 線①・②などから、まだ幼さの残る主人公の「朋子」がバス会社に就職して初めて車掌の仕事をする場面であることがわかる。

(2) 登場人物（主人公）の心情の変化や性格を読み取る

主人公の「朋子」の心情が、「緊張」→「気持ちがほぐれ」→「かっとなり」→「恥ずかしい」→「胸の底にいきなり熱くしみこんで、涙がぽろぼろとあふれ出た」というように変化していることを読み取る。

心情を表すことはどちらから、「朋子」は、物事に感じやすい多感な少女であることがわかる。また、「こわい顔をした年寄りの職人」は、最初の印象と異なり、「朋子」に対しても気をつかってくれる思いやりのある人柄であることもわかる。

例文 主題をとらえる

感受性の強い少女が、初めて社会に出て生きていく姿がみずみずしく描かれている。

20

15

10

5

確認問題

- 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

〈永井龍男「眼ざまし時計」より〉

□(1)

語句の意味——線①「少しこもつた音色」とはどういう音ですか。
次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア やつと聞きとれるほどの澄み切った音。

イ 人込みの中でもかすかに聞こえる、軽やかな音。

ウ 広い範囲に鳴りわたる、さわやかな音。

エ 韶きをおさえられた、やや重い感じのする音。

□(2)

指示語——線②「そんな心配」とありますか、どのような心配ですか。その内容を、「う」という心配」という形で、三十五字以内(句読点も字数に数えます)で答えなさい。

□(3)

性格の把握 本文では、学生はどんな人物として描かれていますか。
次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 人騒がせなことをする、不愉快な人物。

イ 自信たっぷりに行動する、堂々とした人物。

ウ 子供らしさも残る、好感の持てる人物。
エ 落ち着きのある、大人っぽい人物。

	(1)
	(2)
(3)	

隨筆の読解(2)

隨
筆

- 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

学習日



〈松下竜一「雪をいの里」より〉

なりなんか入れたごたる」とあります。筆者の父の耳に貝殻を入れたときの健一の気持ちを、筆者が具体的に想像している一文を本文中から探し、その最初の六字を書き抜いて答えなさい。

□(4) 線③「明日まで待つてお医者に行こう」とありますが、筆者の父は何をもらうために医者に行くのですか。「医者にうたぬめ」という形で、二十字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

□(5) 線④「叱ろうにも、つい笑わずにはいられなかつた」とあります。すが、筆者が「つい笑わずにはいられなかつた」のはなぜですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 見事に祖父をやりこめた健一のいたずらが痛快だつたから。
 イ 健一を怖がらせないように叱ろうと心がけていたから。
 ウ 隠れたつもりで戸の陰にいる健一がかわいかつたから。

□(6) 線⑥「私の耳は貝の殻」の部分に用いられている詩の表現技法として適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 直喻法 イ 隠喻法 ウ 擬人法
 オ 倒置法 オ 体言止め

□(7) 線⑦に入る最も適切なことばを、本文中から四字で書き抜いて答えなさい。

- (1) 線⑤「寝耳に□」が「非常に驚くこと」という意味のことわざになるように、□に入る適切なことばを漢字一字で書いて答えなさい。
- (2) 線①「妙に首をかしげながら」とあります。ここから筆者の父のどんな様子がわかりますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 何が起こつたのか、まるでわかつていらない様子。
 イ 耳の中に入っているのが何かを気にしている様子。
 ウ 貝殻から聞こえるかすかな音に聞き入っている様子。
 エ 健一がなぜそんないたずらをしたのか不思議がる様子。
 ワ 線②「テレビ観よつたら、健一がそばに来ち、わしん耳にいき

(5)	(4)	(1)
(6)		(2)
		(3)
(7)		

評論文の読解(5)

自然と科学、
文明の発達

学習日

- 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

CAMP

20

15

10

5

45

40

35

30

25

〈寺田寅彦「ちゃわんの湯」より〉

50

- (6) 段落②から段落⑦までを二つに分けるとすれば、後半の部分は、どの段落からですか。段落番号で答えなさい。

- (1) ━線①「似たようなもの」とあります、何と何が似ているので
すか。それぞれ二十字以内で答えなさい。
- (2) ━※に入るこことばとして最も適切なものを次から選び、記号で答
えなさい。

- ア 勢いが強いわけです
イ 勢いが弱いわけです
ウ 勢いは同じわけです
エ 勢いが速いわけです

- (3) ━線②「これ」とは何を指していますか。本文中から一単語で書
き抜いて答えなさい。

- (4) ━線③「線香の煙」ののぼり方は、「ちやわんの湯気」ののぼり
方とどのように違いますか。解答欄の図に書きこんで答えなさい。
- (5) 段落⑥と段落⑦の関係として最も適切なものを次から選び、記号で
答えなさい。

- ア 段落⑦は段落⑥で述べたことをさらに詳しく説明している。
イ 段落⑦は段落⑥で述べたことの理由を説明している。
ウ 段落⑦は段落⑥で述べた話題と直接関係ないことを説明している。
エ 段落⑦は段落⑥で述べたこととは逆の場合の例をあげている。

